

予報期間 9月10日から9月16日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 12日は、千島の東の高気圧が北日本に張り出し、太平洋高気圧は日本の南に張り出す。これらの間で、前線が東日本から西日本付近にのびる。
- 13日から17日にかけて、高気圧は日本のはるか東へ移動して気圧の尾根が日本の東に張り出す。別の高気圧が中国大陸から日本海へ移動する。これらの間で、前線が北日本から西日本付近にのびる。

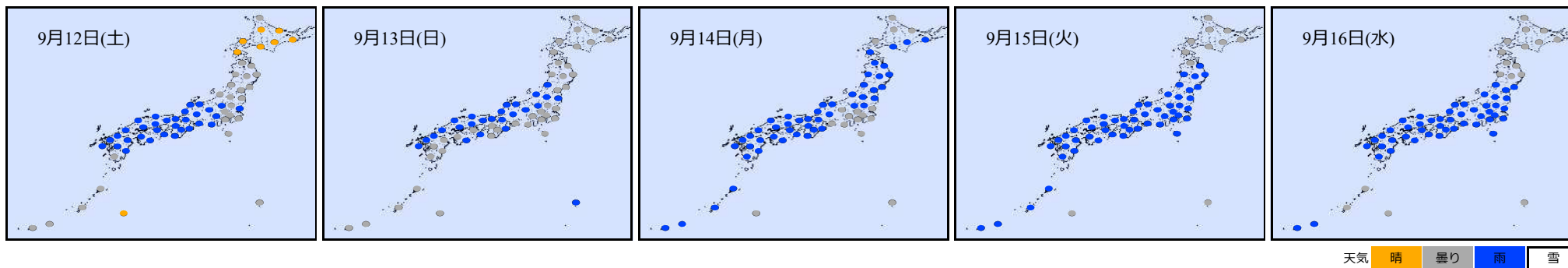
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

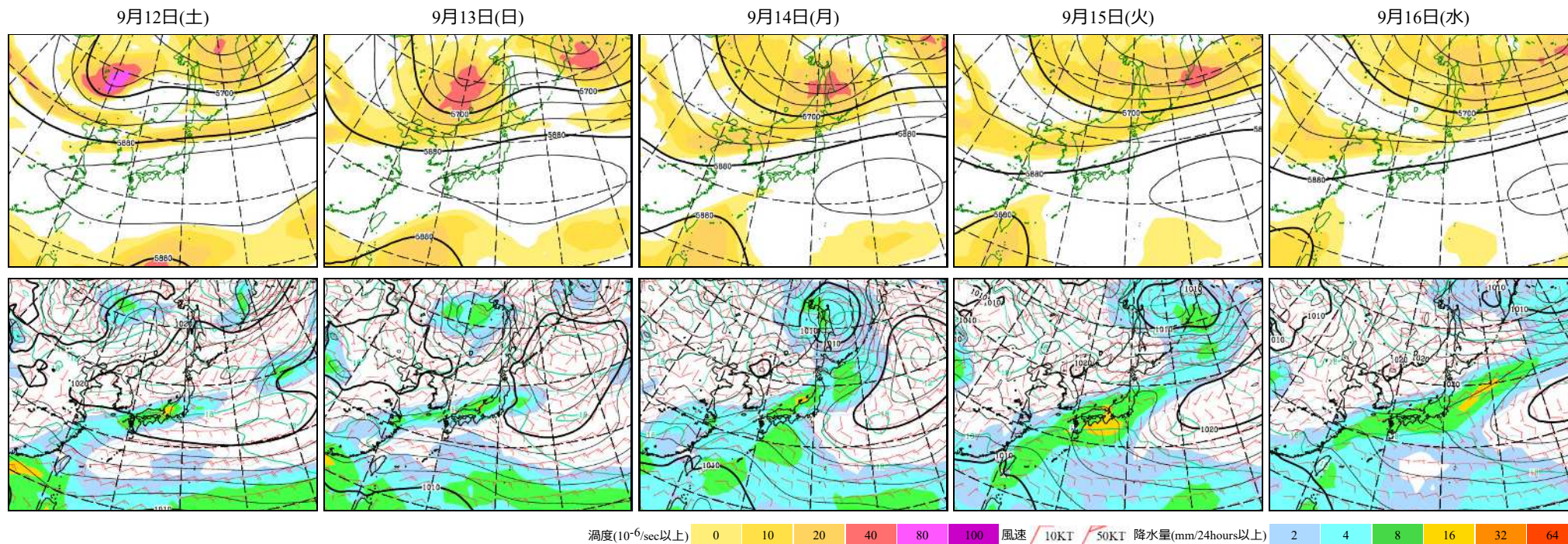
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

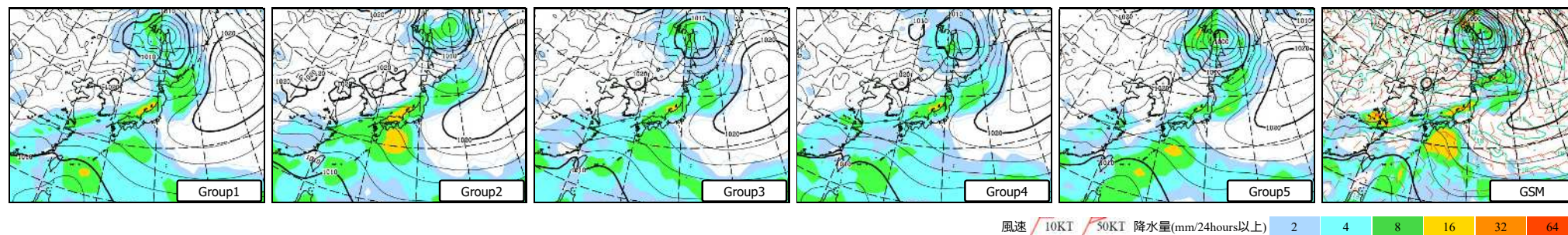


- 北海道地方と沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多いが、12日は晴れる所もある。
- 東北地方と東日本、西日本は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月14日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、12日から16日にかけて中国東北区から沿海州に進む寒気を伴ったトラフが深まり、早まり、サブハイの東への後退が早まった。地上は、13日から16日にかけて日本のはるか東へ移動する高気圧の、東進が早まり、日本の東の張り出しが弱まった。13日から16日にかけて中国大陸から日本海に移動する高気圧が強まった。
- 14日にかけては各モデル比較的揃っているが、15日以降はシベリアからオホーツク海付近に進む寒冷渦の位置と強さや、モンゴルから中国東北区付近に進むリッジの位置に違いが見られる。
- 期間を通してスプレッドは比較的小さいが、昨日に比べると3日目と7日目は拡大した。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。